

三重県のホンマイマイカブリは小さいのか？

N高研究部 生命医療グループ 工藤真悟

概要

他地域のホンマイマイカブリと三重県のホンマイマイカブリの形態が異なり、別の個体群として分類できるのではないかと思ったので三重県の3つの河川(鈴鹿川、雲出川、櫛田川)においてホンマイマイカブリを採集し、体長を測定し、散布図にまとめて考察を行った。

背景

ホンマイマイカブリには飛翔能力がなく、川や山脈などで隔てられると交配ができなくなり、これにより地域によって色彩や体形の差異が現れやすくなっていて、8つの亜種に分類されており、同亜種の中でも個体群によって差異がある。筆者が個人的にホンマイマイカブリを採集した際に、三重県で採集した個体が小型であると感じたため、他の地域のホンマイマイカブリよりも小さいのではないかと疑問を持った。

仮説

三重県は他のホンマイマイカブリが分布する地域と山脈で隔てられていて、他地域のホンマイマイカブリとの交配が進みづらいので他地域のホンマイマイカブリに比べ小型であるという特徴を持った別の個体群であると考えた。

方法

- 1 三重県の3つの河川(鈴鹿川、雲出川、櫛田川)においてホンマイマイカブリを採集した。
- 2 採集したホンマイマイカブリの体長をノギスを使用し測る。
- 3 ②で測ったホンマイマイカブリのサイズを散布図にする。

結果・考察

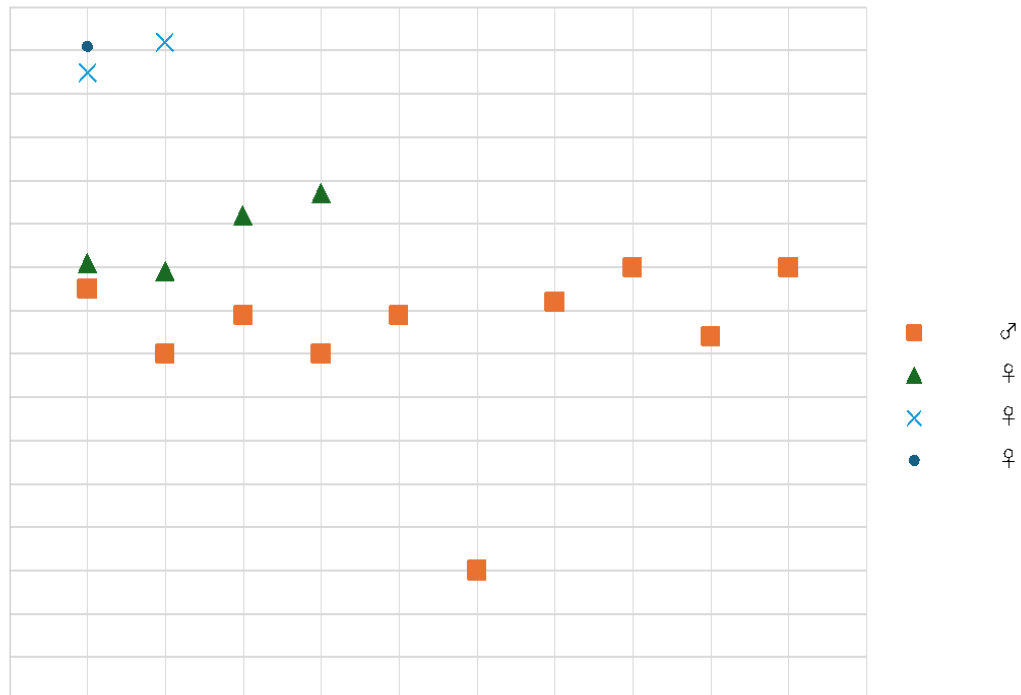
サンプル数が足りないが雲出川と櫛田川のホンマイマイカブリは鈴鹿川の個体に比べ大型、鈴鹿川のホンマイマイカブリは雲出川、櫛田川の個体に比べ小型であった。

他の地域のホンマイマイカブリを採集してないのでわからないが、他に採集している方の採集記などを見ると、雲出川と櫛田川の

ホンマイマイカブリは他の地域のホンマイマイカブリと大きさが

あまり変わらないのではないと思う。

しかし、鈴鹿川では個体数が多かったのでエサ資源などの争奪からサイズが小さかった可能性がある。



展望

最初に予定していたその他の地域との比較については僕の家から遠く、行きづらいので来年以降の課題としたい。
三重県では全域でホンマイマイカブリが小型であると予想していたが、三重県中部、南部に比べて北部の鈴鹿川の個体は小さく、中部、南部の雲出川、櫛田川の個体は大きかった。今回鈴鹿川でしかオスを採集することができなかったため、櫛田川、雲出川のオスについては来年以降の課題としたい。また、来年以降はDNA配列の差異をみて他地域のホンマイマイカブリやヒメマイマイカブリとの比較もしたい。次はエサ資源であるカタツムリの個体数やホンマイマイカブリの個体密度などの調査もして結果の説得力を上げたい。

謝辞

採集場所に連れて行ってくださった祖父母、研究において指導を
してくださった佐野寛子先生、遠藤颯先生、交通費や研究に必要な物品などの購入金を出してくださったN高研究部のみなさま、ならびに理解を示してくださった両親に感謝します。

参考文献

日本産オサムシ図説 井村有希・水沢清行 共著 昆虫文献 六本脚刊 368頁 2013年9月20日発行